

オピニオン

戦後70年「生きる力を育む」絶好の機会 この時代に生きた証となる感動体験を

戦後70年の暑い夏が過ぎた。戦後は遠く離れた、数百万人の尊厳が奪われた歴史を二度と繰り返してはならない。戦後の歴史を再確認すべき時である。折しも国会では集団自衛権をめぐる法案が議論が繰り返されている。平和の願いを無にしては来ない。平和を築くことには、平和学習の重要性が改めて認識されている。ナガサキ、オキナワなどは語り部の高齢化が進み、体験者本人から生話を聞ける貴重な機会が近づいている。

生徒の自殺が後を絶たない中、夏休み明けの9月1日が自殺者が突出して多いという昨年度までの統計が発表された。授業時間増加の今年は8月下旬から始業式を行う学校が多く、合わせて自殺者が多いという。いじめ、不登校、家庭の問題(貧困、虐待)、親子関係不和など、多くの問題が連鎖していると思われる。だからこそ、人間関係構築能力の向上、つまり受け入れ地域であり、修学旅行の目的地に選考してほしいと願っている。次代を背負う生徒には生涯忘れられない感動のうれい涙が溢れる旅である。

ゲーム機やスマホの普及は著しく、多人数や野外での遊びは激減した。人の関わりも自然との関わりも希薄になっている。命の源の「食」もレトルト、冷凍食品、インスタント、出来合いの総菜、コンビニファストフード、ファミレスなど、作らない、作れないから、家庭の食卓を囲まない傾向が拡大し、団結の機会を知らず、都市では食生産現場も知らない今日である。

新学期を迎え、29年度の修学旅行の決定の時期でもある。中学校生活での修学旅行は生涯に一度の機会であり、「この時代に生きた証」となるような内容と感動を与えたい。いつでも行ける名所旧跡神社仏閣やテーマパークではなく、自然体験や、仕事の大切さ、厳しさ、命の尊さ、人間関係構築能力、食を学ぶ農林水産業からの職業体験(キャリア教育)、生活体験(民泊)での教育効果は極めて高く、まさに「生きる力を育む」絶好の機会と言える。

以下に掲載している15地域はいずれもその理念を理解し、生徒の健康管理はもとより、安全対策、危機管理、法令遵守を徹底している受け入れ地域であり、修学旅行の目的地に選考してほしいと願っている。次代を背負う生徒には生涯忘れられない感動のうれい涙が溢れる旅であることを望んでやまない。

全国ほんもの体験ネットワーク会長(体験教育企画代表取締役) 藤澤 安良



宮崎県・北きりしま

宮崎県の南西部、小林市・えびの市・高原町の広域で農家民泊を取り組んでおり、3年前から修学旅行の受け入れを行っています。宮崎・鹿児島・沖縄の空港から約50分、新幹線の最寄駅から約1時間、道の利が長く、霧島連山の麓、南九州のちょうど中心に位置します。星野日本一に輝く当地では、スポーツ合宿も盛んで、海外で活躍する超一流アスリートも保養に訪れる隠れた温泉なども多数あります。いずれの自治体も消滅可能性都市にリストアップされていますが、そこで活動する

「はじめまして!の後は、もう、家族。」

北きりしままでの体験交流

旅行で人間として大きく成長することを期待して、全対策で、全ての受け入れ家庭が簡易宿所の営業、新しい家族、故郷が許可を取得しています。成講座(外部)内部講師、また、以下は年一回の



体験型観光(農家民泊) 北きりしま田舎物語



北きりしま田舎物語推進協議会



宮崎県小林市堤108-1 八幡原市民総合センター内 Tel&Fax 0984-22-3020 E-mail:inaka@sound.ocn.ne.jp

証となる感動体験

長崎県・五島市

長崎県五島列島・福江島を中心とし、11の有人島と52の無人島からなる五島市。美しい海と豊かな自然が溢れ、四季を通じて約りや山海の味覚が楽しめる。600人受け入れが可能な民泊施設、島暮らしの体験、豊かな漁業体験、防波堤釣り、船釣り、定置網、刺し網、地引網の各体験ありのまの暮らしの加え、五島ならではの「五島感動しま」中、生徒の皆さんをお客として迎えます。

「一島一校のしま暮らし民泊 感動しま旅!五島」

旅!と銘打った一連の体験、豊かな自然を存分に味わう。自ら料理して食べることで、民泊1泊の場合、ふれあい交流(家業体験)を組み合わせたことで、深い交流を目指します。民泊2泊の場合は、中日の午前午後2回、クラス全体でできる漁業体験など、五島市で「ふれあい交流」と呼ばれる家業の皆さん同士の交流も深められます。

五島市の強みと特徴

五島市では現在、豊かな自然と多様な農林漁業の営み、歴史や文化を生かした体験型交流旅行の受け入れを推進しています。「五島感動しま」中、生徒の皆さんをお客として迎えます。

「ほんもの体験」が生む民泊先での深いふれあい

「雄大な自然の中での防波堤釣り」

「ふれあい交流体験での釣りも人気」

カラーテープの舞うお別れの光景



「ほんもの体験」が生む民泊先での深いふれあい



雄大な自然の中での防波堤釣り



ふれあい交流体験での釣りも人気



カラーテープの舞うお別れの光景

広島湾ベイエリア・江田島

広島県江田島市は、広は、生徒をお客さまとして、漁業などの営みをそのま体験し、受け入れ家族と行動を共にします。世界遺産の原爆ドームや宮島から近く、特に宮島から船をチャーターして、宮島を共にすることで、家族の大切さや人の温かさを伝えることができます。また、江田島市は、安全な農作物、魚介類を産出しています。

自然豊かな島体験 交流から育む豊かな心の育成

江田島市では、現在約80軒の受け入れ家庭があり、240人の受け入れが可能な民泊施設があります。江田島市の民泊体験での家業や生業である農作物の交流、心と心の交流

また、家業体験では、のおいしさ、食の大切さ、学び、また、牡蠣が自然に育ち、原爆投下によって放射能被害を受けた大勢の人々の中に、江田島市在住の被爆者がいらっしゃいます。被爆者の体験や思いをクラスごと小単位で聞き、対話することで、平和学習としての教育効果が期待できます。

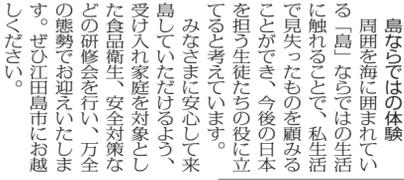
島ならではの体験

周囲を海に囲まれている「島」ならではの生活で、見失ったものを頼みながら、今後は日本を担う生徒たちの役に立てていきたいです。

みなさまに安心して来島していただけるよう、受け入れ家庭を対象とした食品衛生、安全対策などの研修会を行い、万全の態勢でお迎えいたします。ぜひ江田島市にお越しください。



こころの交流が再会への絆をつなぐ



江田島市ならではの牡蠣打ち体験

農家での家業体験

穏やかな海でシーカヤック体験

広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会 (広島商工会議所 産業・地域振興部 地域振興チーム内) 担当(大日・久保田) 営業時間 月~金曜日 8:30~17:30(祝日は除く)

〒730-8510 広島市中区基町5-44 TEL 082-222-6641 FAX 082-222-6411 E-mail:hiroshima@hiroshimacci.or.jp URL http://www.hiroshima-bayarea.net/

〒853-0015 長崎県五島市東浜町2-3-1 TEL 0959-72-2963 FAX 0959-74-3215 URL http://www.goto-shimatabi.com/

一般社団法人 五島市観光協会